

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第18号
2023年11月21日
編集・文 吉成正士

(第17号からのつづき)

次も頑張って発表しよう

■今回の学習では、今までの振り返りのようなことをして、「やっぱりそうだよな」や、「そういう考えがあったのか」など、たくさん思わせられる学習でした。今年に入って初めての発表をして、周りの人や保護者の人は、どんなことを思って僕の発表を聞いて考えているのかが、とても気になりました。僕と反対の考えを思っているのか、それに加えて何かを思っているかなどを考えて、頭の中がいっぱいで、とても緊張しました。でも、その後、「友達によかったよ！」や、先生に「ナイスライ」などと言われて、とてもうれしく、1番の質問でも、発表者が言っていた、スッキリした気分になると言っていて、僕も本当にスッキリして、次も頑張って発表しようと思いました。今まで発表しないことに罪悪感？みたいなものを感じ、後悔していました。これから今回の学習を通して、今回の発表を通して、周りの人に意見を伝えていこうと思いました。

5組YK

一歩踏み出す勇氣です。こればかりは、踏み出してみないと分からないものかもしれません。でも、いざ踏み出してみると、意外と簡単だったりすることもあるものです。しかも認められると、それがまた次の一歩へのエネルギーになっていく。そしていつか、自分と同じような一歩を踏み出す人に出くわしたとき、その人と共感的につながることができる。つながりが、また新たなつながりを生んでいくのだと思います。



人とのつながりが自分を成長させる

■僕は学年全体人権学習を終えて、まず一番良かったのは、全員の前で発表できたことです。発表する前に同じ班だった酒井くんにアドバイスをもらい、自信を持って発表することができました。また、他の人の発表で、スポーツを通して人とつながれたと言っているのを聞いて、自分も同じだと思いました。人とつながることによって、自分

自身もより成長できていると思うので、たくさんの人との出会いを大切に、常に周りの人は自分の支えになっているということを忘れずに、これからも生活していこうと思いました。

3組NS

世界に通用する人権学習

■私が最も心に残っているのは、吉成先生が海外の女性の話をしてくださった後におっしゃっていた、「あなたたちの人権学習は世界に通用する」という言葉です。「あなたたちにはそれぞれ良いところがあるのだから」ともおっしゃっていました。私はそれを聞いて、この学習に参加できてよかったと思います。

私は質問1のときに発表する予定だったけど当たらずに、質問2の時は手を挙げたけど当たらずに、結局立つだけになってしまいました。でも、今回初めて発表した人が多くて驚いたし、初めて知ることができた人もいたので、とても意味のある学習になったと思いました。発表する勇氣は“おかしいことをおかしいと言える”勇氣に変わっていきます。それはやがていじめなどを止める勇氣、声をかける勇氣につながると思います。私たちは、世界に通用する人権学習をしてきました。でも、行動するかどうかは一人ひとりにかかっています。まずは自分が率先して行動に移せるようになって、今日発表できた人は今日のことを思い出して行動してほしいです。これからの未来は私たちにかかっているから、人権学習が受けられたことに感謝したいと思いました。

1組KM

世界基準で見れば、今皆さんがしていることは当たり前のことです。でも、日本で同じことが言えるかというと、そうでもありません。だから世界に出たとき多くの日本人が、チームとして仲間とコミュニケーションをとりながら取り組むことに時間がかかったり、人権に対する意識の違いに驚いたりするのです。受験勉強も大切ですが、同時並行でそんな力もつけていきたいと、私は思っています。単に英語ができるだけではダメです。内面が同等に育って初めて、英語力が生きてきます。それが、本当の意味で、「世界に通用する人材」というものだと思います。

つないでいこう「勇氣のルー」

■今回の人権集会は、たくさん発表する人がいて、すごいと思いました。人権委員としても、6人で考えて出した案が大成功したのでうれしかったし、頑張ってよかったなと思います。先生方の協力もとてもありがたかったです。なんだかいつもより場の雰囲気やわらかく、あたたかいと感じました。実際に発表したときも、話しやすかったです。今日初めて発表する人が多かったのも、そのおかげかなと思いました。一人に負担を背負わせるのではなく、

数人で負担を分散させた方が、やっぱり発表しやすいです。私の班でも、「手を挙げることならできるかも…」と言う人がいて、少しずつ勇気を出していました。そんな姿を見ると、「私も頑張ろう!」という気持ちになります。なんだか「勇気のリレー」みたいな感じだなと思いました。私も他の人への勇気をつないでいけるような人になりたいです。次も今回のような発表しやすい空気をつくれるといいなと思います。

5組HM

数年前、私の友人が、「中学校の同窓会をやろう!」と言い出しました。またそんないい加減なことを、と思いました。当時私の学年は11クラスありましたから、とんでもない労力が必要になります。誰がそんなことをやるのか、とっていると、いつの間にやら私が幹事をするようになりました。

それからが大変でした。人を集めて何度も何度も段取りを繰り返しました。何とか同窓会の実現にこぎつけかけたとき、言い出しっぺのその友人は、亡くなってしまうのです。癌でした。みんなでお葬式に行きました。同窓会も黙とうで始まりました。

でもそのあとみんなで言い合ったのです。「あいつが言い出しっぺになってくれなかったら、実現しなかったよな」と。

人にはいろんな役割があって、多少いい加減でも勢いのある人も必要。地道に実現させる人も必要。表舞台に立つ人も必要だし、裏方役をする人も必要。一人ですべてをやり切ることは不可能です。それぞれにそれぞれの役割があるのだと思います。それでいいのだと思います。それぞれにできることを、それぞれが頑張れば。だから今回のやり方は、本当に素敵だったと思いますし、私自身、そんな同窓会のことを思い出しました。それを実現させたみんなが素敵でした。



次は自分から

■人権・平和学習について、今回初めて発表することができました。人権委員の人たちが、みんなが発表できるようにしてくれたおかげだと思います。今回は僕以外にも初めて発表した人たちがいっぱいいたと思います。また、発表してはいいけれど、みんなの前に立っていつも発表する人の緊張感は、全員分かれたと思いました。今回、一緒に班になった人は、顔を知っている人は少なかったから、自分からあまり声を出せませんでした。しかし次

は、自分から積極的に言葉を発しようと思いました。

3組KT

よく発表できました。発表の長い短いとか、内容とかで、その人の価値がはかれるわけではありません。みんなにとっての今回は、自分の精一杯だったのではないのでしょうか。誰が素晴らしいというのではなく、みんなが素晴らしかったということです。

勉強の出来・不出来で人の価値をはかろうとする現実があります。それで苦しい思いをしているという発言もありました。でも、そんなことで人の価値のすべてがはかれるわけがありません。確かにそれも一つの「ものさし」でしょうが、「ものさし」は他にもたくさんあるのです。たった一つの「ものさし」で、「自分はダメな人間だ」なんて思うことほどバカらしいことはありません。

まずは、努力のできる自分であることです。今、努力している自分を称えることです。結果に目を奪われてしまわないことです。



私の小6のときの担任の先生は、満州帰りでした。授業の合間に、ときおり戦争の話をしてくれました。何も分からない私たちでしたが、それでも何かを伝えたかったのだと思います。もう亡くなっていますが、戦争を知らない私でも、ちょっとは先生の伝えたかったことが、次の世代に伝えられたかなと思います。

私は人権や平和のことについて、皆さんと一緒に学びたいと思ってこの仕事に就いたわけではありません。たまたまそんな先生や、いろんな人との出会いの中で、今の自分がつくられてただけです。もしそんな出会いがなければ、今も人権や平和に無関心だったかもしれません。だから私は、関心がもてない人のことを責めることができません。それは、いつかの自分の姿だからです。

でも逆に言えば、今もまだ関心がもてない人も、これから先の人生で、どう変わるかわからないということです。いろんな人の思いにふれ、それが自分のものとなり、他人事から自分事変わっていく可能性だってあるわけです。誰かの思いが自分に響き、それが自分の思いとなり、自分の生き方や人生だって変えられるかもしれないわけです。皆さんには無限の可能性があります。昔はそうは思えませんでした。でも、皆さんが語り合っている人権学習を見ていると、本気でそう思えます。人は変われます。本気でそう願えば。(19号につづく)